

本書の見方

- 各章は腹部・骨盤部疾患の種類別に構成されています
- 左ページに押さえておきたい疾患画像と鑑別すべき疾患画像を掲載しています

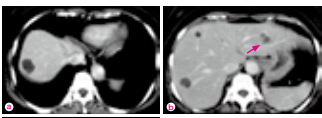
- 右ページに疾患の概要や画像検査の選び方、画像の読影、鑑別診断のポイントなどを解説しています

左ページ：疾患画像


第1章 肝臓 001 肝嚢胞 (liver cyst)

1 **この部分には忘れない**

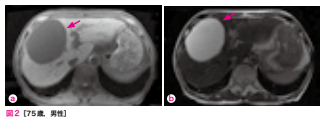
- 境界明瞭な嚢胞性病変
- 造影される充実成分がある場合には嚢性病変を疑う
- MRI T2強調画像の明瞭な高信号は嚢胞の血管腫を疑う




2




3



4



5



6

●できる 1 画像診断入門シリーズ

右ページ：詳細な解説

概念

- 水密度の境界明瞭な嚢胞
- 単純性肝嚢胞は胆道系と交通をもたず、嚢腔性液体成分からなる充実性の嚢胞で、腹腔上段の過洞性嚢腫に由来すると考えられている

病理所見

- 嚢腔成分を含む単純性嚢胞
- 壁は組織学的に厚みを持たない立方上皮

臨床所見

- 日常生活で高頻度に遭遇する
- 出血や感染を伴うことがある (複雑嚢胞: complicated cyst)
- 出血や感染を伴わない場合は無症状であるが、巨大なものでは腹部圧迫症状、上腹膨満、吐き気などの症状を呈することがある

画像検査とその選択

- 最も簡便であり、嚢胞の経過観察では第一選択となる **CT (★★)**
- 単純 CT では低吸収を示す (図1)。嚢泡は単純 CT で十分な **充実性が認められるときには造影 CT が有用である**
- T2強調画像にて嚢胞は明瞭な高信号を示す (図2)
- CT と比較して、小さな嚢胞の検出に優れる

鑑別診断のポイント

- 嚢泡は肝門、もしくは肝門静脈

鑑別診断のここが重要!!

- complicated cyst は単純 CT で高吸収に検出されることがある。また内部に嚢泡や沈着物や出血が検出されることがある
- 特に凝固血は超音波にて乳状の充実成分に類似することがある。造影 CT/MRI にて造影効果認めないが充実成分と造影効果とで鑑別できる
- 単純 CT で高吸収を示す嚢胞の鑑別には線毛性肝嚢胞 (ciliated hepatic foregut cyst) があがる。肝嚢胞内に侵入した胆管を由来と考えられている。造影 CT/MRI にて造影効果を示す。肝嚢胞を由来とした肝嚢泡は好発し、肝表に嚢泡する特徴がある。タンパク質、脂肪、カルシウムなどを含まない嚢泡で鑑別できる
- 小さな嚢泡は CT では境界不明瞭に検出されるため、**微小肝嚢移 (図3) との鑑別が困難になる**
- 嚢泡や MRI では小さな嚢泡も典型的な所見を示す
- 嚢胞内に充実成分を認める場合には、肝嚢胞腺腫や肝嚢胞腺癌の鑑別になる (図4)

参考文献
1) Murota, K. J. et al.: Cystic focal liver lesion in the adult - differential CT and MRI imaging feature. Radiographics, 21 : 895-910, 2001
2) 舘岡 隆 監: 肝嚢胞. 消化器病, 5 : 25-34, 2003

（井上政明, 谷本伸弘）

●できる 1 画像診断入門シリーズ

- 1 各疾患について忘れず身につけておきたい必須事項です。
- 2 各疾患で把握しておくべき典型的所見を厳選した症例の画像で示しました。
- 3 鑑別すべき疾患画像を同じページに呈示しています。ポイントがすぐにつかめます。

- 4 疾患の概念や病理所見、臨床所見などを簡潔に解説しました。
- 5 画像検査の選択法を解説。さらに重要度を3段階 (★~★★★★) で表示しています。
- 6 画像所見で知っておくべきポイントを撮像法ごとに明示しました。
- 7 鑑別診断の重要ポイントを解説しました。左ページ「鑑別すべき疾患」欄とあわせて読めば、鑑別ポイントがしっかりつかめます。